

吹田市環境白書 2023

WHITE PAPER
ON THE ENVIRONMENT
IN SUITA 2023

はじめに

国連気候変動枠組条約(COP27)が2022年(令和4年)11月に開催され、COP26全体決定「グラスゴー気候合意」の内容を踏襲しつつ、緩和、適応、ロス&ダメージ、気候資金等の各分野で、締約国の気候変動対策の強化を求める「シャルム・エル・シェイク実施計画」が採択されました。

同12月にカナダのモントリオールで開催された国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)は、2030年(令和12年)までに地球上の陸域、海洋・沿岸域、内陸水域の30%を保護するという画期的な合意とともに閉幕しました。我が国ではこれに先立ち生物多様性国家戦略の見直しの検討を進めており、2023年(令和5年)3月31日に「生物多様性国家戦略2023-2030」を閣議決定しました。

2022年度(令和4年度)は、ロシアによるウクライナ侵攻により、資源価格に大きな影響がありました。ロシアは、世界有数の資源輸出国であり、石油輸出市場におけるシェアは20%、天然ガス輸出市場でのシェアは40%に上ります。戦争によって原油や天然ガスなどの資源価格は急騰し、新型コロナウイルス禍による供給制約と相まって急激にインフレが進み、我が国の電気料金価格も大幅に上昇しました。

また、2023年(令和5年)5月には、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたため、経済活動の再開に伴い一旦減少したごみ排出量や二酸化炭素排出量のリバウンドが予想されます。

今後も各排出量を順調に減少させるため、市民・事業者と連携し、ライフスタイルや事業活動の転換を進めていく必要があります。

これらの状況を踏まえ、喫緊の課題である地球温暖化問題を解決するため、市民・事業者・自治体が「自分事」としてこの状況を深く受け止め、ライフスタイルや事業活動の転換を図ることが必要不可欠であり、自治体は効果的な対策をすみやかに実行することが求められます。これを受け、西宮市、尼崎市、豊中市、吹田市の4市(NATS)は府県を超えて広域的に施策を展開し持続可能な社会を実現するため、2021年(令和3年)7月29日に「地球温暖化対策の自治体間連携に関する基本協定」を締結し、給水スポットの普及促進など様々な取組を進めています。

本書は、本市が実施している環境施策の進捗状況と環境の状況についての報告書です。本書をとりまとめることで、環境基本計画に掲げた目標の達成度合いを確認し、施策の見直しや充実を図ります。あわせて、身近な環境に関心を持ち、自らのライフスタイルを環境の視点から見直すきっかけとなれば幸いです。

目次

第1章 吹田市の環境政策	1
第2章 目標の達成に向けた重点戦略	3
第3章 目標達成への施策の展開	
第1節 エネルギー	7
再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会への転換	
第2節 資源循環	15
資源を大切にす社会システムの形成	
第3節 生活環境	19
健康で快適なくらしを支える環境の保全	
第4節 みどり・自然共生	27
自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成	
第5節 都市環境	31
快適な都市環境の創造	
第4章 環境基本計画に基づく進行管理	37

—環境白書の編集について

この環境白書は、吹田市環境基本条例に基づいて毎年発行しているものです。

2023年版(令和5年版)は、データや集計については、2022年度(令和4年度)における実績をとりまとめました。それ以外の記述は、2023年(令和5年)10月初旬時点での実績です。

本書は、現在課題となっていることにスポットをあて、まとめています。詳細なデータは資料編にまとめ、吹田市ホームページに掲載しています。本書とあわせてご活用ください。